opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2008年11月)

属人区長であるエチェバリーア司教の今月の手紙は、宝である教会についてである。教会を愛し、教会に使えるための具体的な行いをいくつか提案する。

2008/12/29

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

数日前に、世界代表司教会議が終了 しましたが、教会の一致と普遍性を 再び目の当たりにできたこと喜びを 感じています。また、たくさんの 国々の司教様方が、オプス・デイの 使徒職に信頼を寄せてくださってい ることにも心を動かされました。多 くの司教様方が、ご自分の教区でオ プス・デイの信者や協力者たちが展 開している使徒職に感謝を表明され ましたし、別の司教様方はできるだ け早く、ご自分の国や地方にも安定 した使徒職を始めるように私を急き 立てられました。私は、創立者が将 来の仕事のために祈りつつ、私たち を待っている所がいかに多いかを私 たちに考えさせられときのあの夢の ことを、度々思い出しました。

このような関心や愛情に接し、また 多くの緊急な招きを前にして、次の 言葉がさらに強く心に浮かんできま した。「イエスよ、使徒となる人を お送りください。御身のため、御身 の光栄のためです。」(聖ホセマリア、『道』804)私たちの心に鳴り響いている創立者のこの望みを、天国からのパドレの助けを受けつつ、日々の生活に反映させましょう。

全ての大陸において、教会が必要と していることに熱意を持つことは、 キリスト者に固有の役目であり、こ れからもそうです。特に、今日の諸 聖人の祭日は、この根本的な心の振 る舞いが一層明らかになります。こ の祭日は、単に至福のうちにいる無 数の霊魂に思いを馳せるよう勧める だけではなく、教会の秘義を掘り下 げるようにも招いています。すなわ ち、教会は、未だ地上を旅する 人々、煉獄で浄めを受けている 人々、そして天国で神の喜びに入っ ている人々によって構成されている ということです。

聖ホセマリアがこの真理を述べると きの喜びを、私は忘れることができ

ません。次のように書かれました。 「カトリック教会の中でカトリック 信者が見出すのは、私たちの信仰と 行動の規範、祈りと兄弟愛、また、 この世を去り、今は煉獄という清め の教会で清めを受けているの全ての 兄弟たち、至福直観を勝利の教会で 楽しみつつ、三重に聖なる神を永遠 に愛する兄弟たちとの交わりです。 この地上に留まりながらも歴史を越 えているのが教会です。聖マリアの 庇護のもとに産まれた教会は、この 世と天国でマリアを母と称え続けて います。| (聖ホセマリア、1972年 5月28日説教『教会の超自然的な目 的』)

聖パウロの主要な教えの一つは、教会の本質に関する点です。すなわち、主の弟子たちとは、キリストの神秘体を築くため、神なる御父によって召され、聖霊によって一つに結ばれた人たちであると教えているのです。異邦人の使徒に捧げられた

い信仰者の集団を知って、すぐに熱 心な迫害者となりました。パウロ自 身が三つの手紙の中で、三回、この ことを正直に認めています。|(同 上) もちろん、私たちキリスト者が 自分の言動にイエスの御姿を忠実に 映し出すよう努めているなら、通常 こういうことは起こりません。ダマ スコへの途上、聖パウロは「教会を 迫害することは、キリストを迫害す ることだしと知りました。「その時 パウロは、キリストへと回心すると 同時に、教会へと回心したのです。 ここから私たちは、パウロの思いと 心と活動の中にどうしてあれほど教 会があったかを理解することができ ます」(同上)とベネディクト十六 世は結論づけられます。

復活されたキリストの言葉を改めて 黙想しましょう。「主よ、あなたは どなたですか」と尋ねたサウロに向 かって、「私は、あなたが迫害して いるイエスである」(使徒言行録

9.5) と主はお答えになります。「こ の復活したキリストの叫びがサウロ の生涯を変えました。つまるとこ ろ、すでにこの叫びは、教会はキリ ストのからだであるという教え全体 を含んでいます。キリストは、地上 に『自分の使命』を果たす弟子の群 れを残して、天に退いたのではあり ません。教会は、特別な使命を成し 遂げようとする団体ではありませ ん。教会において大事なのは、使命 ではありません。教会において大事 なのはイエス・キリストという人で す。キリストは復活してからも 『肉』であり続けるからです。キリ ストには『肉も骨も』(ルカ24,39)あ ります。ルカによる福音書の中で、 復活したキリストが、キリストを亡 霊だと思った弟子たちに言う通りで す。キリストには体があります。そ してキリストはご自分の教会の中に 自ら現存します。| (ベネディクト 十六世、2008年6月28日パウロ年開 会式の説教)

このような考えを基にすると、教会 に反対する、つまりその教えや秘 跡、制度、司牧者、とりわけ見える 頭であられる教皇に反対することは 全て、イエス・キリストご自身をさ げすむことになるということを. もっと自覚することができるでしょ う。この世で目に見える教会は、私 たち信者が持つ弱さや過ちを引きず ることがあるとしても、パウロが何 度も繰り返すように、いつも「神の 教会 | であるからです。それは、神 なる御父がご自分の元に召し集めら れた神の民であり、イエス・キリス トが、世の終わりまで人々と共にい るために御血を流してお建てになっ たキリストの体であり、人々の中に 神が本当にお住まいになるように造 られた、聖霊の神殿なのです。第二 バチカン公会議は、ある教父の言葉 でこう要約しています。「全教会 は、『父と子と聖霊の一致に基づい て一つに集められた民』として現れ る。| (第二バチカン公会議、『教 会憲章』4(聖チプリアノ『主の祈りについて』23参照))

ですから、唯一にして三位である神 こそが、教会の本質的な現実と本性 の最終的な基礎を明らかにするので す。それゆえ「真にキリストによっ て設立されたと称されるカリスマ (賜) 的教会と、人間のわざと歴史 的偶然の結果と称される法的あるい は制度的な教会とに分けて考えるの は大変な間違いです。教会は一つだ けです。キリストは唯一の教会を建 てられました。すなわち見えると同 時に見えない教会、位階的に組織さ れた一つの体としての教会、神法を 基礎構造に持ち、牛気を与え、支 え、活かす力を持つ、秘められた超 自然の生命を有する教会です。| (聖ホセマリア、1972年5月28日説 教『教会の超自然的な目的』)

聖パウロは、崇高な教会観を書簡で 展開し、教会の一致や普遍性が危険

にさらされる時に、力強く振る舞う べき訳を説きます。反発しあって徒 党を組みがちだったコリントの信者 たちをこう叱責しています。「私の 兄弟たち、実はあなた方の間に争い があると知らされました。あなた方 はめいめい、『私はパウロにつく』 『私はアポロに』『私はケファに』 『私はキリストに』などと言い合っ ているとのことです。キリストは幾 つにも分けられてしまったのです か。パウロがあなた方のために十字 架に付けられたのですか。あなた方 はパウロの名によって洗礼を受けた

のですか。」(1コリント1,11-13) 母である聖なる教会の一致を守ることに全情熱を傾けた使徒はまた、その普遍性を守ることにも苦心しました。教皇様はこう指摘されます。「パウロは最初から、この恵みがユダヤ人や特定の人の集団に対してだけ与えられるのではないこと、むしろそれが全世界と全ての人に与えら れることを知っていました。神は全 ての人の神だからです。| (ベネ ディクト十六世、2006年10月25日一 般謁見の講話)そうして、キリスト 者の最初の共同体が会堂での集まり に限定されてしまう危機を前にし て、エルサレムの公会議は、あらゆ る人種、言語や出身地を越えて全て の人がキリストの教会に入るよう呼 ばれていることを宣言したのです (使徒言行録15,23-29参照)。「そ こではもはや、ユダヤ人もギリシャ 人もなく、奴隷も自由な身分の者も なく、男も女もありません。あなた 方は皆、キリスト・イエスにおいて 一つだからです。| (ガラテヤ 3.28)

このように教会がキリストに属していることから「私たちが本当にキリストと一致して生きなければならないという務めが生じるのです。そこから、キリスト教共同体を力づけ、組み立てる様々な賜についてのパウ

口の薦めもなされます。これらの賜 は皆、唯一の源である、父と子と霊 に基づきます。なぜなら、私たちは 教会において誰もこれらの賜を欠く ことはないとよく知っているからで す。使徒パウロが『一人ひとりに 《霊》の働きが現れるのは、全体の 益となるためです』(1コリント12,7) と述べている通りです。| (ベネ ディクト十六世、2006年11月22日一 般謁見の講話)あなたは、本当に信 心を込めてpro unitate apostolatus 使徒職の一致のために祈っています か。教会のため我が身を捧げている 全ての人のため、どのように祈って いますか。祈ることによって、キリ ストのために働いている所の隅々ま で行き着くことができることを知っ ていますか。

教会が唯一であると同時に多様性に 富むことをお望みになった神に、ど れほど感謝しなければならないこと でしょう。聖霊がキリストの花嫁を

飾ろうと表明されるあらゆること に、どれほど敬意を表さなければな らないことでしょう。「教会には 色々な種類の役務がありますが、そ の目的は一つ、つまり人々の聖化で す。そしてこの聖化の仕事には、洗 礼と堅信の秘跡で受けた印章によっ て、全ての信者が何らかの形で参加 します。私たち全員がキリストの使 命であるこの教会の使命に対して青 任を感じていなければなりませ ん。| (聖ホセマリア、1972年6月4 日説教『教会に忠誠を尽くす』)教 会において不要な人は誰もいませ ん。皆が必要です。大切なのは、一 人ひとりが受けた召し出しや恩恵に 従って、見える頭である教皇、さら には司牧者たち、そして全ての神の 民とどう交わりを持つかという点に 集約されます。

聖パウロの教会についての教えの中 に、教会の一部であるオプス・デイ の神学的法的姿がくっきりと浮き彫 りにされています。教皇様がオプス・デイを属人区として設置された25周年を記念して設けた特別なマリア年が終わるこの時期に、そのことについて考えたいと思います。オプス・デイの信徒と司祭の使徒職は、必然的にオプス・デイ属人区の活動している地域の部分教会の司牧活動に協力するものです。

神のしもベヨハネ・パウロ二世は、 それを愛情を込めて思い起こされ、 「オプス・デイの位階的本質」につ いて話し、こう続けられました。 「信徒は属人区に所属すると同時に 部分教会にも属しています。ですか ら、属人区固有の使命は、第二バチ カン公会議によって予見されたよう に、全ての部分教会の福音盲教の使 命と一致することになります。| (ヨハネ・パウロ二世、2001年3月 17日、使徒的書簡『新千年期の到 来』についての研修会参加者への講 演)

これはベネディクト十六世が最近強 調されたことでもあります。「『神 の教会』は単に様々な地域教会の総 体だけではなく、唯一の神の教会が 実現したものであることが分かりま す。それらは全体で『神の教会』で す。そして『神の教会』は個々の地 域教会に先立つとともに、地域教会 のうちに表現され、実現します。し (ベネディクト十六世、2008年10月 15日一般謁見講話)オプス・デイ が、教会と教皇そして全ての人に什 えるとき、教皇が特別な司牧職のた めに設置される一つの組織としてこ の目的を果たすことになります。 「そのメンバーがそれぞれ居住し働 く地域の部分教会に所属していると しても、(属人区は)それ自体が普 漏教会に属しているものです(…)。 このことは司教の下にある部分教会 の一致を妨げないばかりか、逆に、 その交わりに固有な内的多様性を与 えることになるのです。| (教理

## 省、1992年5月28日書簡 『Communionis notio』16)

創立者の足跡を辿りつつ、パリのバック通り(Rue du Bac)にある不思議のメダイのご像の前で祈りました。そこで、日常生活を英雄的な聖性に変える大きな奇跡を実現するため私たちを助けてくださるように、皆さんの祈りを聖マリアに献上しま

した。マリア年の最終行程にいる 今、そして生活のあらゆる時に、カ ナでしもべたちに「この人が何かださいつけたら、その通りにしてくだこい」(ヨハネ2,5)と指示されたこと を果たしつつ、聖母の手にしったう。 を果たしつで歩みを進めましょう。 あの時のしもべたちに倣って、皆が あの時のしもべたちに倣って、が がりと仕事を通してusque ad summum いっぱいまで、全面的 に、応えるようにしましょう。

ペンを置く前に、再度、特にミサ聖祭において、私の意向に一致するようお願いしないわけにはいきません。ここしばらくは、王であるキリストの祭日の前日、11月22日に、ローマで私が助祭叙階の秘跡を授ける皆さんの兄弟たちのために祈ってください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2008年11月1日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2008nian-11yue/ (2025/11/28)